



## 『浜中の思い出』

### 浜中駅

母の実家が駅前の旅館であったから、幼い頃、毎週のように、厚岸から浜中まで列車でやって来た。

古い駅舎は、はつきりと記憶に残っている。大きなレバーから、回転機や腕木式の信号に延びる太いワイヤー。タブレットを受け取るための、グルグル巻きのパネ。向かいのホームへ渡るためのホームの階段と、それを覆う蓋。そして切符がたぐさん並んだ窓口や、酒やプラモデルまで売っていた売店。

今でも、駅のホームに立つと、それらが思い出されてしまう。

### 店

駅前の日通横には、たくさんの荷物が詰まっていた。駅前広場を挟んだ向かいには、飯屋や床屋があった。

浜中市街の映画館はすでに廃屋になっていたが、その隣に駄菓子屋があった。色のどぎついお菓子や、竹木細工の飛行機を売っていた。

旅館には、ブリキの箱を背負った館売りがやって来て、南部煎餅に水飴を塗ってくれた。また、便利屋さんも来たので、釧路の書店に浜中周辺の地図を頼んだこともある。当時、釧路は遠い都会だった。

### 道

舗装工事のために駅前の道が深く掘り下げられた。旅館前の桜が切られたのは残念だったが、道の底に渡された板を渡ったり、路肩を滑り降りたりしたのが楽しかった。

日通横から駅裏の変電所に渡る踏切が、お気に入りだった。小学校に入る前、友達を誘って、国道に通じる、もうひとつ向こうの踏切から、この踏切を目指して、線路沿いに歩

いたことがある。日が暮れ、雪も降り出したものだから、親達は大騒ぎになった。

たまには、診療所や墓参りに行くために、バスで霧多布に向かった。車掌さんの持っている鞆と鉄が懂れだった。

バスの旅の圧巻は、榊町へ下る坂道だった。カーブごとに、何度もクラクションを鳴らして降りていくのは、スリルがあった。

友達と探検気分であけた榊町の岩肌のトンネル。雨だったせいか、とんでもない悪路だった、霧多布と茶内を結ぶ道。なんの目的もなくバスで越えた、火散布と藻散布の間の峠道。これらが全部消えてしまったのは、ちよつと寂しい。

また、地図で知った茶内の軌道もずっと気になっていたけれど、ついに乗れなかったのは、つくづく残念だ。

### 公園

駅裏の公園の花見は賑やかだった。花見列車を降り、桜のトンネルを抜けると石碑と池があり、その周りで大勢の人が宴会をしていた。

お盆には、公園の小川に仏壇の供物を流しにも行った。ひとけのない公園は、森のささやきに満ちていた。

あの公園は、今、どうなっているのだろう。

### 学校

小学三年のとき、半年だけ浜中小学校へ通った。一クラス十三人だった。ガキ大将が捕まえてきたコウモリが教室を自由に飛び、それを山に返す、返さない、で大論争になった。

教室のテレビで見たアポロ十一号の月着陸。中学校の体育館で見た新幹線の紹介映画。ここ浜中で、目が大きく世界に開いたのだ。

トラックの荷台にクラス全員が乗せられて、姉別の運動会に参加しにいったような覚えもあるが、これは夢のように定かではない。

たった半年の学校だったが、その後、大きな学校ばかりに通った身には、宝物のような経験となった。

